

ハスモンヨトウの発生に注意！（第2報）

（対象作物：かき、なし）

岐阜西濃および中濃地域のフェロモントラップにおける、9月第I半旬～9月第VI半旬の累計誘殺数は、岐阜市で1,842頭（平年1,529頭）、可児市で3,123頭（平年699頭）とそれぞれ平年の1.2倍、4.5倍と多くなっています（図1）。

向こう1カ月の気象予報（名古屋地方気象台 10月5日発表）によると、気温は平年並から高く、降水量は平年並で、今後は本虫の増殖に好適な条件が続くと見込まれ、被害の拡大が懸念されます。一部のかきほ場では、葉に産卵された卵塊から発生した幼虫（図2）が散見され、果実へタ内側へ侵入して食害する被害も確認されています（図3）。ほ場内をよく確認し、卵塊やふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は取り除くとともに、発生が多い場合は、薬剤登録内容での使用時期の収穫前期間に注意して、若齢幼虫のうちに薬剤防除を実施してください。

また、県内の一部地域では、薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されています。薬剤抵抗性の発達を防止するため、使用する薬剤は異なる系統のものをを用い、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

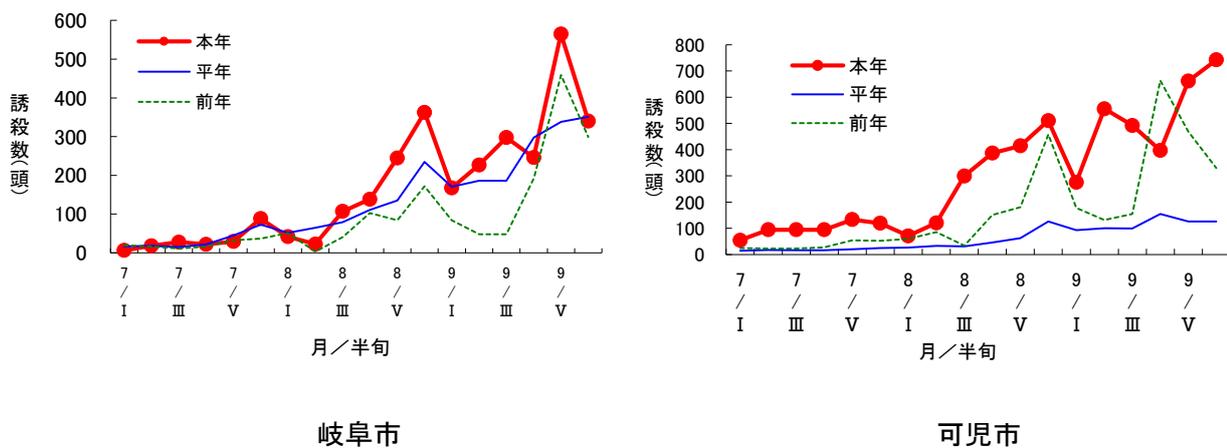


図1 各地域に設置したフェロモントラップにおける誘殺数の推移



図2 ハスモンヨトウ幼虫



図3 果実へタ内側に侵入した幼虫

- 農薬の使用にあたっては、最新の登録内容を確認し、適正に使用してください。
農薬登録情報提供システム
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- 当所のホームページに発生予察情報、病虫害調査データなどを掲載していますのでご活用ください。
岐阜県病虫害防除所
<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>